

○市民利便性評価（アクセシビリティ）について

アクセシビリティとは、一般には人々があるサービスを利用するに当たり、その入り口に入るまでのサービスへの到達のしやすさをいいます。

この検討では、市民による利用しやすさの観点から、各候補地（モデルプラン）から目的地までの移動を伴うアクセシビリティが対象です。

検討にあたっては「アクセシビリティ指標活用の手引き（案）（国土技術政策総合研究所）」のアクセシビリティ指標（T指標）による評価方法を参考とします。

① 公共交通の利便性評価

鉄道及びバスを利用する事を想定し、最寄りの乗り場（各方面）から庁舎まで移動する時間と、公共交通の待ち時間を合計した公共交通を利用するまでの時間の期待値を算出します。

表-1 鉄道利用までの時間の期待値

候補地	モデルプラン	最寄り駅	経路延長 (m)	(a) 徒歩時間 (分)	平日日中 鉄道本数 (本)	(b) 待ち時間の 期待値 (分)	(a+b) 鉄道利用までの 時間の期待値 (分)
大月駅北JR変電所跡地	A	大月駅	760	15.2	68	10.6	25.8
大月短期大学敷地	B1	大月駅	370	7.4	68	10.6	18.0
大月短期大学敷地	B2	大月駅	370	7.4	68	10.6	18.0
大月市役所本庁舎	C1	大月駅	390	7.8	68	10.6	18.4
大月市役所本庁舎	C2	大月駅	340	6.8	68	10.6	17.4

表-2 バス利用までの時間の期待値

候補地	モデルプラン	最寄りバス停	経路延長 (m)	(a) 徒歩時間 (分)	平日日中 バス本数 (本)	(b) 待ち時間の 期待値 (分)	(a+b) バス利用までの 時間の期待値 (分)
大月駅北JR変電所跡地	A	大月短大前	680	13.6	31	23.2	36.8
		大月駅	760	15.2	35	20.6	35.8
大月短期大学敷地	B1	大月短大前	90	1.8	31	23.2	25.0
		大月駅	370	7.4	35	20.6	28.0
大月短期大学敷地	B2	大月短大前	90	1.8	31	23.2	25.0
		大月駅	370	7.4	35	20.6	28.0
大月市役所本庁舎	C1	市役所前	10	0.2	36	20.0	20.2
大月市役所本庁舎	C2	市役所前	10	0.2	36	20.0	20.2

※(a)徒歩時間：50m/分として算出

※(b)待ち時間の期待値：60分/1時間当たりの運行本数/2（上下線）

※平日日中バス・鉄道本数：2023年8月時点の平日時刻表より10時～16時までの合計値

【検討結果】

- ・大月駅北 JR 変電所跡地（A案）：鉄道利用の待ち時間の期待値は約26分、バスは約37分となり、待ち時間の期待値が最も長い。
- ・大月短大敷地（B1, B2案）：鉄道利用の待ち時間の期待値は約18分、バスは待ち時間の期待値が約25分となります。
- ・大月市役所本庁舎（C1, C2案）：鉄道利用の待ち時間の期待値は約18分、バスは待ち時間の期待値が約20分となり、最も利便性が高い結果となっています。

② 自動車・徒歩利用の利便性評価

自動車・徒歩による利用しやすさを検討するにあたって、自動車は15分以内、徒歩の場合は15分以内に候補地にたどり着ける範囲の人口を算出し市の総人口に対するカバー率を算出します。

表-3 自動車・徒歩利用の人口カバー率

候補地	自動車利用		徒歩利用	
	カバー人口	カバー率	カバー人口	カバー率
大月駅北JR変電所跡地	12,111	53.8%	1,058	4.7%
大月短期大学敷地	15,466	68.7%	1,846	8.2%
大月市役所本庁舎	15,938	70.8%	1,823	8.1%

【検討結果】

- ・大月駅北 JR 変電所跡地：徒歩、自動車共にカバー率が最も低い。
- ・大月短期大学敷地：自動車利用のカバー率は2番目に高く、徒歩利用のカバー率は最も高い。
- ・大月市役所本庁舎：自動車利用のカバー率が最も高く、徒歩利用のカバー率は2番目に高い。



【検討結果（全体）】

- ・大月駅北 JR 変電所跡地は他の候補地に比べて市民利便性（アクセシビリティ）が低く、大月短期大学敷地・大月市役所本庁舎については大きな差は無いと考えられる。